資料

ランガナタンのインドでの受容の一例

岡田 大輔
(相愛大学 講師)

An example of Ranganathan's acceptance in India

By Daisuke OKADA
(Lecturer of Soai University)

1　目的

日本の図書館学・図書館情報学において，ランガナタン (Shiyali Ramamrita Ranganathan) は比較的多く言及されると考えられる。志保田の指摘するように，ランガナタンは戦前 (1935 年) から 4 期のブームを経て継続的に取り上げられている 1)。2022 年度の日本図書館研究会の研究大会のシンポジウムのテーマも「『図書館学の五法則』の実践 (ランガナタン没後 50 年)」が設定されている 2)。日本ではランガナタンは "人気" である，と言えるだろう。

筆者にはランガナタンの業績を評価できる知識はなく，現在の日本の "人気" に異議を唱えるつもりはない。ただ，図書館情報学に限らないが，海外の事物が日本においてのみ "人気" であることはよくあることである。海外におけるランガナタンの受容状況を知ることは，現在の日本における図書館情報学の位置を知るために有用であると考えられる。

本稿はランガナタンの出身国であるインドにおけるランガナタンの受容を調査した。

2　方法

I-LISS の第 6 回の大会が 2022 年 10 月 13〜14 日にインドの National Institute of Technology Warangal, Telangana で行われた。今回は，この予稿集 3) から，ランガナタンの受容を分析した。

予稿集には 128 件の発表とともに，基調講演 1 件と「テーマ論文」1 件の計 130 件の発表が収録されている。今回は，この中から筆頭著者が日本・フィリピン・イラン・台湾・タイの組織に所属する 5 件を除いた，インドからの発表である 125 件を分析の対象とした。今回の予稿集は PDF で提供されており，全文検索できる。"Ranganathan", "Five laws", "Colon" といった言葉で全文検索を行い，ランガナタンに関する記述を網羅的に収集した。

今回の大会のテーマは "Revitalizing the Libraries to the Android Society (アンドロイド社会における図書館の活性化)" (以降翻訳はすべて岡田による) であり，IT 技術に関する発表が多かった。ただ，そのようなテーマの発表においてもランガナタンが言及されるのであれば，伝統的な図書館学の文脈ではさらにランガナタンが言及されるであろう。この大会の予稿集からインドの図書館情報学関係者の知識や考え方が現れている，インドにおける受容状況を読み取ることができると判断した。

3　結果

結果として，125 件中 13 件でランガナタンや 5 法則に言及されていることが確認された。この他に，“save the time of users” などとのみ触れられている発表が 4 件あるがカウントしていない。以下で触れられた文脈をそれぞれ紹介する。

「ラーイプル市の公共図書館，特にナランダ・パリサール図書館の Oxy Reading Zones (大学生のための緑のハブ) について」4)

イントロダクションにおいて公共図書館の機能を説明する中,「ランガナタンは「公共図書館は，物質的な幸福，精神的な仕事，精神的な喜びを生み出すものである。公共図書館は，一人一人，すべての人の永続的な自己教育の手段を提供する義務を負った社会機関であり，思想を流通し，余暇を活用し，民主主義を求め，文学を普及し，商工業を成功させることに貢献する。」と述べている (p.67)」と，参考文献 5) を挙げて引用される。

「図書館は人生の味方! — どこで，だれに対して?」6)

刑務所図書館に関する研究である。イントロダクションにおいて,「本研究は，図書館の第 2 の法則「すべての人に本を (Every person his or her book)」，また第 3 の法則「すべての本をその読者に (Every book its reader)」を満たすものである (p.94)」と触れられる。

「学術分野における革新的技術とポリシーの受け入れ: 機会か挑戦か? (招待論文)」7)

イントロダクションにおいて,「デジタル時代でも，インドの図書館学の父であるランガナタン博士による図書館学の 5 法則は今日も将来も適切である。基本的な 5 つの法則と照らし合わせてみると，図書館の今後の発展のため，利用者サービスを向上し，図書館員がより認知されるよう，状況が許す限り図書館は新しい技術や国の政策を受け入れるべきなのは疑いない (p.136)」と述べられる。

「ICAR-IVRI 研究所 国立獣医科学図書館における KOHA ILMS を用いた無線自動識別装置 (RFID) 貸出の重要性」8)

論の展開の中,「(RFID は) ランガナタンによって提唱された図書館学の第 4 の法則，すなわち「読者の時間を節約せよ」を実現する (p.183)」と簡単に触れられる。

「図書館におけるロボットの導入」9)

イントロダクションにおいて，図書館はロボットの導入の例外ではないと説明された後,「ランガナタン博士の図書館学の 5 法則は，さまざまな状況に対して図書館の専門家が指針を求める際の普遍的な答えであると証明されている (p.199)」と (どう証明 (proven) されたかは説明されずに) 簡単に触れられる。

「IoT: スマート図書館への転換」10)

結論の直前，5 法則をすべて掲げて IoT との関連について説明している。「IoT は図書館学の 5 法則と比較すると，以下のようにその意味合いと役割を最大限に果たしている。

Books are for use:　本に IC タグを添付し，追跡できるようにすることで，本に対する安全性が高まり，開架にすることが進み，最終的に本の利用が増加する。

Every reader his book:　読者は無線センサネットワークによって本を追跡でき，必要な本を非常に簡単に見つけられる。

Every book its reader:　(カメラで本を認識できる) マジックミラーシステムを用いることで，(今読んでいる本に関連する本を紹介できるが，) このハイテクなレファレンスサービスは，あまり使われていない本の利用を促すこともできる。特定のエリアを利用者に歩いてもらうことで新着図書を勧め，利用を促すこともできる。

Save the time of reader:　IoT システムによって，図書館全体の作業はとても速くなる。利用者は行列に並ぶ必要がなくなる。IoT は利用者だけでなく，図書館スタッフの時間も節約できる。

Library is a growing organism:　IoT は多数の IC タグや機器を効率的かつ効果的に処理するということで，これは図書館が常に成長し続けるという性質に合致する (p.224)」

「知的コミュニティにおける質の高い図書館サービスとリソースを提供するための図書館専門職による技術の導入」11)

論が展開していく中，表を用いて電子資料がどこからアクセスされているか説明する際，「5 法則は図書館資料とサービスの活用について説明している。以下の表 3(筆者注 略) は，この図書館が時間や場所に制限なく，エンドユーザーが手元で利用できる図書館資料とサービスを提供していることを表している (p.238)」と説明される。

「図書館におけるアンドロイドテクノロジー」12)

イントロダクションが「図書館が成長する有機体であることは周知の通りである (p.247)」から始まる。

「情報サービスと提供物が最大限に活用されるための図書館サービスのマーケティング」13)

結論の直前，図書館員にマーケティングが有用であると主張する部分で，「図書館がビジネスの考え方を取り入れる中で，ランガナタンは顧客志向という考え方を取り入れていた。ランガナタンは，図書館を「本を必要とする人が利用できるよう蔵書を管理し，近隣の人全員が図書館を利用する習慣をもち，本を読む人に変えていかねばならない公共機関または施設」と表現した (p.462)」と，ランガナタンもマーケティングの考え方を持っていたと述べられる。

「工科大学図書館におけるコレクション開発: マファカム・ジャー技工大学 SMNA 中央図書館のケーススタディ」14)

イントロダクションの 1 段落目において，コレクション開発は 60 年代後半に広く使われるようになった言葉であり，ポリシー・選書・評価・除籍・保存といったものを含む広い用語であると説明される。その後すぐ，「ランガナタンの 5 法則の最初の 3 つは，収集・保管・利用者に読み物を広めることが図書館の中核的な機能であると言っているととらえることができ，これは，間接的には質の高いコレクションが重要であるということである (p.478)」と，コレクション開発の考え方はランガナタンの考え方と合致していると続いていく。

「デジタル環境における図書館員の役割: スキルと課題」15)

結論に近い部分において，図書館員に求められるスキルがいくつも挙げられる中，時間管理のスキルが紹介される。ただ，その説明は「ランガナタンの第 4 の法則は，図書館職員と利用者の双方にとって時間管理の重要性を強調している。すべての図書館サービスは，最も効率がよく時間が節約できるように，図書館職員によって慎重に計画されるべきだ (p.557)」のみである。

「産業革命 4.0: デジタル時代における ICT の変化に対する図書館情報学専門職の変革」16)

イントロダクションの 1 文目にて，「ランガナタンは図書館学の父であり，“図書館は成長する有機体である” と述べている。したがって，現代の図書館が，目まぐるしく変化する情報技術に合わせて，成長し，適応し，進化し続けることは驚くべきことではない。第 5 の法則は，1931 年と同様，21 世紀の図書館員に今なお将来の青写真を提供し続けている (p.583)」と始まる。

「インドにおける図書館学教育の再定義: アクレディテーションと新教育政策 2022 の文脈における分析」17)

イントロダクションにおいて，インドの図書館学教育の歴史を紹介する中で，「最初の博士号としては，ランガナタン博士の指導のもと，1957 年に D. B. Krishna Rao 博士が授与されている (p.659)」と説明される。

また，「“大学・短大図書館に関するランガナタン委員会 (1957–59)”，“図書館学教育に関するランガナタン委員会 (1961–65)”」など，これらの委員会は，インドの LIS 教育が直面している様々な問題を調査し，教育の質を高め，図書館資料を活用するいくつかの提言を行った (p.660)」など，ランガナタンの名を冠した委員会が設置されたことが分かる。

4　結論

1 つの研究大会のみからの分析ではあるが，インドではランガナタンや 5 法則に言及される予稿は一定数あることが分かった。つまり，ランガナタンはインドの図書館情報学の研究者にある程度受容されていると考えられる。

おそらく，インドでは日本や欧米よりランガナタンが受容されていると考えられる。ただ，日本や

欧米での分析結果は見当たらず，また自ら分析を行うこともできていない。そのため，現在の段階ではインドでは日本や欧米よりランガナタンが受容されていると結論づけることはできない。

5　議論

5.1　ランガナタンそのものに関する研究はない

ランガナタンの名や 5 法則が比較的言及されることに対して，ランガナタン自体に関する研究は無かった。もちろん，今回の大会のテーマは情報系であり国際学会であることから，それぞれの発表者は海外の参加者を意識して発表内容を選んでいると考えられる。ただ，そもそも図書館史の研究はインドからは 1 件もなかったのは興味深い。今回の分析対象ではないが，日本から，志保田務ほかによる「S. R. ランガナタンが日本の図書館に与えた影響の分析」18) がこの大会で発表されているのとは対照的である。

5.2　日本のランガナタンの受容との差異

日本のランガナタンの受容とやや異なると感じられるところもある。例えば，4) は 5 法則ではないランガナタンの未邦訳の著作 5) から引用され，これは日本ではあまり見られないと考えられる。また，日本において，5 法則は「本は利用するためのものである」「読者の時間を節約せよ」「図書館は成長する有機体である」が比較的多く言及される印象があるが，インドではその他の 2 法則もまんべんなく引用されているようである。

また，今回の大会では，情報資源組織化に関する研究はマニュスクリプトのメタデータの作成に関する 1 件しかないことを踏まえておく必要があるが，ランガナタンの大きな功績の 1 つであるコロン分類法に触れる発表は全く無かったのも興味深い。

5.3　ランガナタンの “定形化”

インドの図書館学教育を扱う 17) は，ランガナタンの名前を出す必要はあるだろう。ただ，その他はそれほど必要があるとは思えない部分で引用されることが多いと感じられる。12)14)16) のようにイントロダクションの冒頭で 5 法則が用いられたり，10) のように 5 法則をすべて掲げているものもあるが，引用しないと論が展開できないとは考えられない。また，13) の「マーケティング」や 14) の「コレクション開発」のように，自らのテーマと 5 法則を無理に関連付けていると感じられるものもある。

おそらく，インドの図書館情報学では，ランガナタンや 5 法則について触れることが “定形化” していると考えられる。

ランガナタンや 5 法則について批判的に取り上げているものは見られない。ただ，5 法則は「今日も将来も適切である 7)」「今なお将来の青写真を提供し続けている 16)」との記述があり，批判的に捉える考えがあるようにも受け取れる。

参考文献

1) 志保田務「日本における S.R.Ranganathan 先行研究評価稿」2022 年度 I-LISS Japan Chapter 研究大会 (2022 年 12 月 10 日) における口頭発表
2) 日本図書館研究会「日本図書館研究会 日本図書館研究会第 64 回研究大会 (ご案内)」2023. <https://www.nal-lib.jp/64taikai/>. [引用日: 2023-02-20]
3) *Revitalizing the Libraries to the Android Society (Proceedings of the 6th I-LISS International Conference – IIC 2022).* Hyderabad, India, BS Publications, 2022. <https://drive.google.com/drive/folders/1T6C4UMrWYiYo3X9DE3v9IKW_DcIzOy5M>.
4) Gautam, M., Uplaonkar, S. and Tramakar, N., "Public Library in Raipur with Special References to Nalanda Parishar, Oxy Reading Zones (A Green Hub for Students)," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.67–70.
5) S. R. Ranganathan, *Library manual, for library authorities, librarians, and honorary library workers.* Bombay, Asia Publishing House, 1960.
6) K. Tamilmani, "Life Behind Library! — Where and To Whom?," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.94–97.
7) Jange, S. and Nagaraj, C., "Acceptance of Innovative Technologies and Policies in Academics: An Opportunity or Challenge? (Invited Paper)," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.136–142.
8) Kandpal, K. N. and Saxena, R., "Importance of Radio Frequency Identification Device (RFID) Circulation using KOHA ILMS in National Library of Veterinary Sciences, ICAR-IVRI, Izatnagar," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.179–185.
9) Nandal, P., "Introducing Robots in Libraries," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.199–202.
10) Kumar, D. and Singh, N., "Internet of Things: Transition towards Smart Libraries," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.221–225.
11) Chouhan, Kavita and Babu, M. S., "Technology Adoption by Library Professionals for providing the quality Library Services and Resources among the Intellectual Community: A study," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.236–240.
12) Santhosh, B., "Android Technology in Libraries," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.247–250.
13) Shirbhate, C. V, Pachgade, V. S. and Sarode, R. D., "Marketing of Library Services for Optimum Utilization of Information Services and Products," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.460–463.
14) Venkateswarlu, Y. C. H., "Collection Development in Engineering College Libraries: A Case Study of Muffakham Jah College of Engineering & Technology — SMNA Central Library, Hyderabad, Telangana," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.*

2022, p.478–482.

15) Papegowda, M., N. Kavya and B. M. Puneeth., "Role of Librarians in the Digital Environment: Skills and Challenges," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.554–560.

16) Bagavathi, A., "Industry Revolution 4.0: Changing information and Communication Technology in Digital Era and Change Management of Library and Information Professionals," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.583–594.

17) Francis, A. T., "Re-defining Library Science Education in India: An Analysis in the context of Accreditation and New Education Policy 2022," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.659–663.

18) Shihota, T., Oshiro, Z., Maekawa, K., Nakamura, Y. and Toma, M., "An Analysis of S. R. Ranganathan's Influence upon Librarianship in Japan (Invited Paper)," *Proceedings of the 6th I-LISS International Conference.* 2022, p.23–29.